

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称：株式会社マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上 13-6
評価実施期間：平成 28 年 12 月 1 日から平成 29 年 3 月 15 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060872 050231	

### 2 福祉サービス事業者情報（平成 28 年 10 月現在）

事業所名：松代福祉企業センター	種別：社会事業授産
代表者氏名：理事長 寺田 裕明 （管理者氏名）所長 原山 文彦	定員（利用人数）：50 名(42 名)
設置主体：長野市社会事業協会 経営主体：同上	開設（指定）年月日： 昭和 39 年 9 月 30 日
所在地：〒381-1221 長野県長野市松代町東条 2523-2	
電話番号：026-278-3665	FAX 番号：026-278-3798
ホームページアドレス：Htt//nagano-shjkyo.or.jp	
職員数	常勤職員：7 名 非常勤職員 0 名
専門職員	
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等） 作業室 3 食堂 1 更衣室 2

### 3 理念・基本方針

<p><b>基本理念</b> 長野市社会事業協会は、利用者の人としての尊厳を大切に、地域社会でゆとりと潤いのある、その人らしく、いきいきと自立した日常生活が送れるよう、利用者本位のニーズに合った福祉サービスの提供に努めます。</p> <p><b>基本的視点</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 私たちは、利用者や家族の声を大切に、利用者と対等な立場で信頼関係を築きます。</li><li>・ 私たちは、サービスの質の評価を行い、公正で良質かつ適切なサービスを、提供するように努めます。</li><li>・ 私たちは、地域やその他の関係機関と連携し、より充実したサービスが受けられるよう努めます。</li><li>・ 私たちは、サービス内容の情報提供を行い、個人情報を適切に取扱い、事業運営の透明性の確保に努めます。</li><li>・ 私たちは、専門性を高めるため、常に研鑽し、資質の向上に努めます。</li></ul>
--

### 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

利用者の希望を聞いて作業内容を決めている。 利用者の体調面などを考慮して作業場所を変える。
--

### 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

### 特に良いと思う点

#### 1 < 利用者の特性に配慮した支援体制と、職員と一体となった作業姿勢 >

当施設は、基準該当という施設の特性から、障害を持つ利用者と健常な利用者がともに仕事をする施設である。そのため、利用者だけでなく職員も一体となって、障害の有無にかかわらず、互いに助け合い、企業からの委託作業に取り組んでいる。

日常の作業では、それぞれの利用者の特性に合わせた作業種目が用意され、作業環境も利用者の障害に合わせて工夫がされていた。

また、障害のない利用者の方や、比較的軽度の障害の利用者の皆さんが、他の利用者のお世話や仕事の手伝いをするなど、心温まる姿や話を伺うことが出来た。これらは、職員も例外でなく、利用者とともに汗し、施設長といえども、利用者に励まされて働く姿に施設の一体感と温かい雰囲気が感じられた。

#### 2 < 長い歴史に裏付けされた企業との信頼関係に基づく安定した就労活動 >

当施設は、昭和39年の開所以来、地元企業との永年の信頼関係から、常に安定した就労作業の維持が行われている。何れも根気を必要とする単純作業であるが、作業種目や作業環境の工夫を行い、利用者同士が助け合って、企業からの発注に確実に応えている。

先人の半世紀に渡る苦労と、地元企業の高い信頼を更に発展させ諸課題の解決にむけ安定した就労活動への取り組みがうかがえる。

#### 3 < 職員の改革意欲 >

様々な種別の福祉施設での勤務経験のある施設長は、当施設の福祉施設としての改善点を的確に把握し、職員に周知・指導を行い、改善に強い意欲で取り組んでいる。

利用者の工賃を上げるために、企業からの受注を積極的に行ってきた当施設では、生産性に重きが置かれてきた。

しかし、この現状に対し、施設長を中心に福祉施設としての課題や改善点を認識し、改革意識を持っている。施設全体を改革しようとする意志が感じられた。

この努力に対し、法人の強いバックアップが、施設機能の強化や施設の地域住民に広く理解される可能性を感じる。

### 特に改善する必要があると思う点

#### 1 < 基本的な PDCA サイクルの実行 >

当施設では、アセスメント、個別支援計画、実施記録、モニタリングの基本的な PDCA サイクルの書式はあるが、その内容は、決して充分とは言えない。

支援ソフトを使用しているため、アセスメントを行うツールは存在するが、本人や家族を交えた十分な聞き取りをした課題の抽出による利用者ニーズ把握ができていない。アセスメントに於いて、利用者や家族の思いを把握し、支援者の気付きを促し、課題やその背景を部門を越えた職員間で検討することで、利用者ニーズに即したより現実的な個別支援計画になるものと思われる。

支援ソフトの中で完結することなく、PDCA サイクル全体を全ての職員が把握し、日常の個々の支援と業務全般の改革が進むことを期待したい。

#### 2 < 情報の蓄積と活用 >

事故・ヒヤリハット報告や苦情解決のシステムはあるが、情報の蓄積と分析が充分とは言えない。

事故・ヒヤリハットの報告や苦情は、福祉施設にとっては貴重な財産である。これらの情報を積極的に収集し、分析することで大きな事故や問題を防ぐだけでなく、一人ひとりの職員の成長と施設全体の成長が期待できる。

危機管理や更なる施設の発展のために、事故・ヒヤリハットの事例収集と分析のシステムと苦情解決のシステムの改善と充実が必要と思われる。

### 3 < 地域社会への参加 >

当施設は、措置利用者の働く場という施設の特徴からか、近隣の地域住民と交流する機会があまりなかった。施設の駐車場を、夏のラジオ体操の場として提供することはあるが、建物を地域住民に開放する機会はない。

しかし、近年、当施設が、災害時の福祉避難所として計画があるとのことだが、建物や設備の老朽化で、近隣地域のお年寄りや障害者を受け入れられる環境ではない。

老朽化した施設を改修し、バリアフリーの環境を整備し、地域の人たちにとって気軽に訪れやすい施設とすることが早急に必要と思われる。

また、施設職員や利用者も地域の会合や催し物に積極的に参加し、施設の役割や存在を地域の人たちに理解して頂くと共に、利用者の社会参加に協力が得られる環境作りが必要と思われる。

その結果、地域の社会資源の一つとして、広く認知される施設となることを期待したい。

### 4 < 利用者の自立と施設の安定経営に向けた検討 >

当施設の最も悩ましい点は、「利用者の自立が施設運営の安定に結び付かない」点にある。

ここ数年で、何人かの作業能力の高い利用者が一般就労を果たし、自立への一歩を踏み出した。しかし、このことは当施設の経営面においては、利用者が減ったことによる措置費収入が減となり、決して喜ばしいことは言えない。

加えて、作業能力の高い利用者がいなくなったことで、利用者全体の作業量も低下し、他の利用者が補えるまでの期間、契約企業との信頼を維持するためには、職員が補わざるを得ない状況となる。

利用者が経済的な自立を果たすことは、本人はもとより、措置権者である自治体にとっても財政的に喜ばしいことであろう。

そこで、障害者のある利用者に対しては、就労移行事業と同等の加算が必要と思われ、また、生活保護の利用者に対しても同様の加算があっても良いのではないだろうか。

利用者の自立に向けて、利用者も施設職員も意欲を持てるシステムの検討が、施設のみならず、法人本部と措置権者である自治体を交えて行われることを期待したい。

また、日常の作業の中で、利用者間の思いやりによる協力体制があるとのこと。これら出来高の作業では現れない責任感などの評価を工賃に反映できる「工賃規定・就労規定」と、それに則った「作業能力評価」の記録があっても良いのではないだろうか。これらは、利用者が一般就労を果たす際の貴重な資料となるだけでなく、利用者の向上心の促進にも繋がるものと思われる。

利用者の社会参加や自立を促進し、当施設が安定した施設経営を行うために、施設の構造的な問題を改善することが必要であると思われる。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

事業評価の結果(評価対象1及び ) (別添1)

事業評価の結果(評価対象 ) (別添2)

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合 (別添3 - 1)

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

平成29年3月24日記載

今回初めて第三者評価を受審しましたが、良い点、改善すべき点をあらためて考えさせられる機会となりました。

当施設は、利用者に合った仕事を自分で選んで働けるような環境と職員との一体感で働きやすい場であることが望ましいと思っています。年間を通じての仕事の確保と利用者の意見を把握し利用者に寄り添った環境作りが必要だと思っています。良い点はこれからも伸ばしていく努力をし評価の低いところは、会議等でしっかりと話をしていきたい。また、当施設は地域の福祉避難場所になっているが、老朽化が目立つので安全性を考慮し、関係機関と話をしていき、改善のできるところからやっていきたいと思っています。また、「個別支援計画・ヒヤリハット」なども職員会議で話をしていき、利用者が安心安全に仕事ができる環境にしていきたいと思っています。

今回の受審で評価委員の方には、ご指導、アドバイスを頂き感謝しております。